

# グローバル通信

2012.6 vol.25

Ryukoku University  
GLOCAL TSUSHIN

今年もまた満開の桜を迎えて新学期がはじまりました。大型連休が終わり、ようやく大学院生活になじんできたかと思ったら、はや夏の気配すら感じる季節になってきました。みなさんいかがお過ごしでしょうか。今号は2012年度最初の号になります。3班に分かれた特別演習が本格稼働してきました。この1年に賭ける院生のみなさんの〈想い〉をお届けします。また昨年度末に行われた修了生によるシンポジウムや修士論文報告会などのコース動向を掲載しました。修士論文を書かれるみなさんは当面は7月中旬の中間発表の準備で忙しくなってきます。暑い夏へむけて知力だけでなく、体力も養っていきましょう！（編集部）

「元気をつなぐまち、新しい河内の八尾」の実現に向けて	1
地域の文脈に沿った「公共」を創出するために	1
特別演習スタート	2
新入生へのメッセージ	3
龍谷大学に着任しました	3
修了生の今	3
院生シンポジウム	4
熱気あふれる!! 修士論文報告会	4
事務局の紹介	4
私たちが編集しています	4
事務局インフォメーション	4



## 「元気をつなぐまち、新しい河内の八尾」の実現に向けて

田中 誠太 (八尾市長)

近年、住民やNPO、ボランティアなど「新しい公共」を担う多様な地域の活動主体との協働により、地域の活性化と個性・魅力あるまちづくりを進め、地域の新しい価値観を生み出していくことが求められています。

このような社会情勢の中、龍谷大学のNPO・地方行政研究コースでは、地域社会および地域政策の担い手として、政策課題の発見、多角的視野からの政策構想、立案、実施のため、自立的に政策課題に取り組む能力を有する学生の育成にご尽力されているとお聞きしております。

八尾市は、約27万人が住む都市であり、都市化が進んだ地域や自然・農地が多い地域、高齢者が多い地域や子どもが増えている地域など多様な特色を持った地域で構成されています。

また、地域ごとに魅力や課題はさまざま、これまでそれぞれの地域の特色を反映した取り組みが行われています。

そのような中、それぞれの地域において、行政と地域とが適切な役割分担のもと協力しあい、自らの想いの実現に向けて主体的にまちづくりを進めていくことをめざしており、私たちはそのしくみを「八尾市版地域分権」と名づけ、まちづくりの理念にしています。この理念のもと、「八尾市第5次総合計画」の将来都市像である「元気をつなぐまち、新しい河内の八尾」の実現をめざし、将来にわたり持続可能な行政運営のための不断の努力を怠ることなく、市民サービスの向上に向け、「第2期八尾市行財政改革プログラム」を推し進めております。

また、求める職員像を「市民に信頼され行動する職員」とし、地域の想いをまちづくりに反映し、「八尾市版地域分権」によるまちづくりに積極的に取り組みます。市民の皆様方と「ともに考える、ともに行動する、ともにチャレンジする共創の自治都市創り」に職員一丸となって邁進してまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、貴大学におかれましては、地域社会において市民、企業、自治体などと連携を深め、活力ある地域づくりのため、培われた知識・能力を発揮されますとともに、本協定が双方にとって実り大きなものとなりますことを願っています。

## 地域の文脈に沿った「公共」を創出するために

榎井 縁

(公益財団法人とよなか国際交流協会  
常務理事兼事務局長)



1993年豊中市によって設立された国際交流協会（組織）／国際交流センター（場）は、自治体のスリム化と民間の公共参入促進、競争制度の導入が進められ、2007年財団のあり方が検討され、2011年からは指定管理制度が始まり、組織の規模は半減状況にあります。

しかし、この春から公益財団法人として管理運営することとなった現センターは、年間5万6千人（うち外国人1万4千人）が利用し、それ以上の人びとが入り出す活気に溢れた場となりました。99年に明文化されたミッションステートメントと同時に始められた関係者全員で毎年行う事業評価によって、現在30近くある事業を担う300人以上の市民ボランティア等は、温度差はあっても、協会ミッションを共有して活動しています。来訪された方が感じる活気は、外国人（女性や子どもが中心）が安心できる居場所、またピア的なボランティアが多く出入りする所から来るのかもしれませんが。

また、協会は「市の外郭」を“強み”ともしてきました。地域セーフティネットを推進する社会福祉協議会との信頼関係からは、ボランティアを超領域でシャッフルし活動評価する「活動と社会をつなぐボランティアトレーニングコース」（2002年）などが生まれ、男女共同参画推進財団も参加、市の公益活動推進政策にも大きな役割を果たしました。2011年には再度、福祉、男女共同参画、環境、市民、国際など様々な市民活動をつぶさに拾い上げた『とよなかの市民活動ガイドブック』を発行し、分野や形態の違う5団体で「共同デスク」をつくりました。そこでは、協働やパートナーシップなどの文言が多用される「新しい公共」を批判的に考察し、行政との具体的な関係性について整理し、発信をしていこうとしています。

社会不安が煽られる中で、地域で公共の一端を担う公益法人（組織）としてセンター（場）とともに生き残ってこられた現実には、縦軸にミッションを共有する人びとの蓄積、横軸に同じように行政と市民の間に置かれた団体との連携という縦横をつなぐ活動（人びと）の存在があったからこそでしょう。

今後、地域に沿った「公共」を創出していくため、どのようなアクターとしてオルタナティブな展開ができるのか、実践研究を推進している貴大学院との連携を期待します。

# 特別演習スタート

※特別演習ごとに紹介しています。

- ①氏名 ②所属
- ③研究テーマや趣味など

## 白石先生・富野先生ゼミ

### ①大園 汐織

③みなさんはじめまして。変な私ですが、仲良くしていただけると嬉しいです。研究テーマは具体的には決まっていませんが、地域経営とローカルガバナンス興味があります。これからよろしくお願いします。

### ①梶本 武志

③京都に住んで6年目ですが、まだ知らないことばかりです。伏見が日本酒の産地であることを知り、蔵の見学や写真を撮りに行っています。伏見の日本酒を含め、地場産業について研究していきたいです。

### ①佐野 光平

③学部時代、アフリカの子どもの思いを馳せ活動しました。趣味はフィールドワークを兼ねた途上国貧乏旅です。現在グローバルからローカルヘンシトし、「次世代への責任と協働」を軸に市民の可能性を追求しています。

### ①譚 潔瑛

③海外留学生の一員として、多民族の人々が互いに文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていくという多文化共生社会づくりの課題を研究したいと思っています。

### ①芝本 和孝

③日本の自動車政策の成果と課題について研究します。様々な経験をされた方と一緒に学べるのでとても良い刺激になると思います。忙しい1年間になるとは思いますが、楽しみたいです。よろしくをお願いします。

### ①三宅 遥

②茨木市役所（企画財務部収納課）  
③今年の4月から茨木市役所に所属しています。仕事では税金を収税する仕事に携わり、論文では保育行政に関する内容を書く予定です。宜しくお願いします。

### ①市野 瑛子

②NPO 法人 三重ダルク  
③住み慣れた地域で暮らせる町づくり活動について関心があり、認知症の方や家族をサポートする地域の見守り活動を研究テーマにしたいと考えています。趣味はダンスでHulaを用いて高齢者の健康づくり活動をしています。

### ①金澤 徹

③今年3月末で38年間林業技術職員として勤めた京都府を定年退職し、孫もいるGGです。福知山から通学しています。森林・林業再生のためのにも、持続可能な中山間地域のための施策として、自分では脱原発、地域分散型再生可能エネルギーの進展が最重要課題と認識しています。

### ①小林 美智子

②茨木市議会  
③地方議会に身を置く者として、自らの経験も踏まえ、議員に求められる代表性に視点を置き、地方議会の役割について修論を書きたいと思っています。趣味はダンスです。下手の横好きですが、10年ほど習っています。継続は力なり！

### ①田中 宏典

②大津市役所（建設部道路建設課）  
③白石ゼミ1期の学部卒業生です。今回は、農業に持続性を求め、担い手政策、特に滋賀県内で盛んな集落営農にスポットを定め研究を進める予定です。価値ある、有意義な一年にしたいと思います。

### ①玉本 美保

②奈良市役所  
③奈良市役所に勤務しています。自治会の方々と接することが多く、地域がもっと元気になるようにと論文のテーマも自治会にまつわる内容で模索中です。この一年は勉強し時間を確保し、趣味も少々自制中です。



### ①横川 豊彦

②東近江市役所（教育委員会学校施設課）  
③地域のことは地域に住んでいるみんなが決め、あるものを活かす市民の方の所得をあげる活動をしたと考えています。また、思ったことを政策に昇華させるための論点整理や見方を学びたいと思っています。見た目が怖そうと言われますがそんなことはないのを見かけたら話しかけてください。趣味はスノボ、ウェイクボード、トレッキングです。

## 矢作先生・高橋先生ゼミ



### ①今里 美香

③福祉・NPO・地域に関心があります。趣味は音楽を聴くこととカフェ巡りです。よろしくお願います。

### ①滋野 正道

③3月に佛教大学社会学部を卒業し、当コースに入学しました。学部時代の市民活動に興味を持っており、その興味から当コースに惹かれていました。現在は「地域メディア」と「コミュニケーション」を軸に研究テーマを模索しています。

### ①竹本 真梨

③大学4年間で様々なボランティアや地域の取り組みに関わってきました。大学院では、今までの経験を生かしながら、理論と実践の双方を学び、将来は地元（徳島県）の地域に携わりたくと考えています。

### ①居内 壯大朗

③関心ことは過疎や耕作放棄地についてです。人の内面に踏み込むような分析を行うこともあるので、疲れたら図書館に行って説法を聞きます。辛い大学院生活のお勧めのスポットです。

### ①鳥部 聖人

③昨年「東北子ども会」を立ち上げ、震災の影響で東北から避難している子どもたちの居場所づくりを時間があるときにしています。関心はまちづくりや観光で、趣味は仏像鑑賞、旅行、フットサルです。一年間よろしくお願いします。

### ①林 遼平

③本学経済学部を卒業後、約3年半の社会人生活を経て現在に至ります。一昨年にスペインの巡礼路カミーノ・デ・サンティアゴを歩き、その時以来、都市の盛衰や付随する道の魅力、そのあり方などに関心を持っています。今年も有意義な一年にできまよう。

### ①阿部 和基

②公益財団法人とよなか国際交流協会  
③国際交流協会では多様な人びとが尊重される地域づくり事業として活動者間の対話の場を開いています。政策学研究科で公共政策・地域政策を学ぶにあたり、対話と議論についても学べることは喜びです。肌身で感じたことをもとに理論もしっかり吸収したいと思っています。

### ①高濱 黄太

②NPO 法人 AM ネット・尼崎市議会議員  
③幼い頃、こけるとそのまま地面をいじって遊んでいたとか。サラリーマン、議員、NPO 事務局長、大学院。様々な偶然で自分のステージが変化してきました。新しい偶然と変化を楽しみに一年を過ごしたいと思っています。

### ①宮原 崇

②京都市総合企画局市民協働政策推進室  
③市民が市政に参加しやすくなるよう取り組んできました。これからは、市民との協力・協働を考えていくに当たり、理論的思考を学ぶために入学しました。趣味はマウンテンバイク、登山、食べ歩きです。

### ①矢野 孝一

②たかとりコミュニティセンター  
③26才で起業して以来、ICTの業界で仕事をしてきました。その中で、働き方の多様化を感じながら、それを実践することは出来ませんでした。NPO 活動に関わる機会を得て、人生の転換点としてここで学んだ事を実践に活かしていきたいと考えています。

## 中村先生・只友先生ゼミ

### ①中川 健

③地方自治体の財政に興味を持っていてこれからの研究対象にしていきたいと思っています。趣味は映画鑑賞とお酒を飲むことです。

### ①並木 州太郎

③関西初進出です。つつい散策したくなるような路地、そこを抜ける古い寺社仏閣や賑やかな商店街に出会える京都の生活を満喫しています。都市の魅力が地域の発展につながるような地域的な制度の分析がテーマです。

### ①船本 佳裕

③環境税に興味があります。よろしくお願いします。

### ①石田 浩基

③持続可能な発展のための教育について研究をします。京都市内の環境 NPO でも活動しており、持続可能な枠にとらわれない「環境」全般に関心を持っています。今年1年、宜しくお願いします。

### ①岩本 陽子

③市民教育に関心があり学生 Place+ 等で活動してきました。修士論文は市民教育の一端を担っているユースワークに着目し、研究します。色んな方に支えて頂いていることを日々感じます。これからもよろしくお願いします。

### ①上野 敏寛

③新しいものを生み出したのがモトローの上野です。修士論文では地場産業がグローバル化の中で無形の強み（技術力等）を活かし、どのようにイノベーションを起こすかを研究しています。よろしくお願いします。



# 新入生へのメッセージ



社会問題に鋭い関心を!

脇田 滋 (法学研究科)

NPO・地方行政研究コース新入生の皆さん

連日、新聞、TV等で実に多様なニュースが報道されています。原発ガレキ処理、入れ墨排除、生活保護と扶養……。こうした社会の激しい動きに強い関心を持って下さい。しかし、意図的な世論操作も少なくありません。現象の表面だけでなく、原因に至る深い考察が重要です。

民主社会の基本は、相互の権利、とくに少数者の権利を最大限に尊重しつつ、自由な討論を通じて合意を形成することです。法学研究科は昨年、分野別研究会を中心に、論文作成支援態勢を大きく強化しました。しかし、鋭い人権意識に基づいて問題を捉え、現状を変えようという院生の主体性尊重は変わっていません。



学びの醍醐味を味わうとともに  
未来への確かな眼を養って下さい

石田 徹 (政策学研究科)

NPO・地方行政研究コースへようこそ!

政策学研究科は、地域における公共的課題をセクターの壁を超えて解決していくことのできる人材を育てることを目標にして昨年4月に開設されました。おかげさまで、昨年、今年と入学者は定員を上回り、学部から進学した院生と社会人院生とが相互に刺激し合って活気ある学びの場がつけられています。日本は少子高齢社会、人口減少社会に突入し、国の内外、そして地域においてかつて経験したことのない課題に直面しています。課題解決のための処方箋＝政策はそう簡単に発見できるものではありません。しっかりした学びの中で未来を切り開く方策を自ら見出していただきたいと思います。

## 龍谷大学に着任しました



「恐る恐る」一生懸命の原点を忘れずに

中村 剛治郎

(地域経済学・地域政策専攻、商学博士、横浜国大名誉教授)

特別演習という制度は、他のゼミに所属する専門を異にする院生の修士論文作成に向けての側面指導をする制度のようです。安易にアドバイスしたり、形式的に指導しては、意味がなかったり、混乱を呼ぶだけに終わる危険があります。広くて深い学識、研究指導力を教員に求める「ものすごい」制度やなあと、正直、戸惑いながら、「恐る恐る」(この心が大事だと思っています) 一所懸命やるしかない、というのが私の実情です。院生には、研究テーマ(研究対象)への漠然とした想いに留まらず、方法としての専門分野、そこでの学説史、研究方法論や理論的蓄積、新しい仮説の立て方、新しい実証の仕方、新しい結論、それらの学界における自らの研究の位置(意義)を強く意識してほしいと願っています。

## 修了生の 今

自治体文化事業社会化の最前線 — 大阪市音楽団 —

渋井 満 (2009年度修了・大阪市職員 音楽士)

私は2009年、税で賄う「市営の楽団」から寄付で支える「市民の楽団」に転換すべく、1年間研究に臨みました。そこで得た先進的な発想はごく周囲には浸透も見ましたが、急進的な改革者を迎えてもなお、現場の危機感、使命感の共有には至りませんでした。そして今日、『市政改革プロジェクトチーム(PT)案』で「事業廃止・民間移管」とされた音楽団事業を担当する職員である音楽士に対し、使用者である市長の責任として設定された懇談会が開催。その後、PT案を踏襲した『市政改革プラン(素案)』が示され、パブリックコメントや市会での議論を経て成案となり、「大阪市音楽団」の将来を形づくっていきます。周囲の浸透が気づきに変わり事態は急速に進展し、「自治体文化事業の社会化」の最前線と感じています。



出典: Go!Go!市音! 大阪市音をほめる会  
<http://55shion.jimdo.com/>

## 院生シンポジウム

### 「地域の龍谷」への道

(林 遼平 政策学研究科)

2012年2月25日(土)に、NPO・地方行政研究コース生による院生シンポジウムが開催されました。第1部では基調講演として「地域の龍谷」をテーマに、河村能夫先生(経済学部教授)から、約1時間にわたり密度の濃い講義をして頂きました。河村先生の定年前最後の講義ということもあり、OBの方々も含め、多くの方が聴講にいられていました。また、第2部では政策学部、奥野恒久、只友景士、土山希美枝、松浦さと子、的場信敬の先生方が登壇し、同様に「地域の龍谷」をキーワードに、それぞれの研究のお話や相互の意見を交えた熱いディスカッションがなされました。質疑の時間も目一杯使って意見が飛び交うほど、最後まで熱気の絶えない、楽しく学びの多い一日でした。



## 「熱気あふれる修士論文報告会」

2012年3月10日(土)に政策学研究科の「修士論文・課題研究報告会」が深草学舎で開催され、大学院での研究成果を共有することを目的に、2011年度の修了生による修士論文の報告が行われました。当日は、教員・次年度修了の大学院生・早期履修生・次年度入学予定者・卒業生など、多くの方が熱心に見守る中、若手院生・NPO・行政・企業など多様なセクターの修了生が多彩な修士論文を熱く報告しました。最後に総評として石田研究科長から修了生に向けて、労いの言葉が贈られ、報告会後も共に学んだ修了生同士や修了生と教員が語り合うなど熱気溢れる会場となりました。

(上野 敏寛 政策学研究科)



### 事務局の紹介

2012年度のNPO・地方行政研究コース担当者です。コース生皆様の教育研究のサポートをさせていただきますので、何か不明なことがありましたら、いつでも窓口にお越しください。お待ちしております！

(右から)  
法学部教務課大学院担当(河野)  
政策学部教務課大学院担当(中西)  
NPO・地方行政研究コース事務局(榎並)



### 編集スタッフの紹介

グローバル通信25号では、昨年度担当の岩本・鳥部に加えて、今年度担当の竹本・滋野の4名で編集を行いました。今年もコースの楽しさや面白さをグローバル通信でたっぷりとお伝えしていきたいと思いますので、宜しくお願いします！

(奥から) 滋野、岩本、竹本、鳥部 (いずれも政策学研究科)



### 事務局インフォメーション

#### <地域リーダーシップ・先進的地域政策研究講演会>

第1回 6月2日(土) 13:30~15:10

講師: 阿部泰宏氏、吉野裕之氏

テーマ: 福島原発事故から1年 絶望から再生へ  
“Fukushima”からのメッセージ

第2回 7月30日(月) 18:30~20:00

講師: 阿久沢悦子氏(朝日新聞記者)

テーマ: 教育基本条例を考える

第3回 8月3日(金) 18:30~20:00

講師: 大阪府狭山市長 吉田友好氏

テーマ: 市長という仕事とは

#### <協定先懇談会>

日時: 7月25日(水) 12:00~15:00

場所: 龍谷大学深草学舎紫英館大会議室

### NPO・地方行政研究コース ニュースレター「グローバル通信」通巻25号 2012年6月

発行/龍谷大学大学院 NPO・地方行政研究コース  
連絡先/政策学部教務課  
TEL: 075-645-2285 FAX: 075-645-2101

H P / [http://www.ryukoku.ac.jp/gc\\_npo/](http://www.ryukoku.ac.jp/gc_npo/)  
編集/岩本陽子、鳥部聖人、滋野正道、竹本真梨  
編集補助/榎並ゆかり  
監修/大矢野修、松浦さと子、土山希美枝  
印刷/株式会社 田中プリント